





<p>内田 幸彦</p>	<p>生業 民俗文化財</p>	<p>① 経歴・職歴 民俗文化センター・生涯学習文化財課・歴史と民俗の博物館等を経て、文化財・博物館課</p> <p>② 過去の業務実績 H22第1回埼玉県民俗芸能公開事業運営 H23第53回関東ブロック民俗芸能大会運営 H24～26 県立博物館施設総合調整推進会議事務局を担当 H28歴史と民俗の博物館企画展「祝いの民俗」運営 R1埼玉県文化財保存活用大綱策定にかかる事務を担当 R3協議会に参加した白岡市・秩父市の文化財保存活用地域計画が県内初の文化庁長官認定 R4「木造飛天像」(秩父市)「木造釈迦如来立像」(美里町)の新規指定・「三峯神社」(秩父市)6棟の追加指定事務を担当</p> <p>③ 研究業績等 H15「埼玉県民俗工芸調査報告書 第14集 鴻巣の赤物」民俗文化センター(分担執筆) H17「埼玉県民俗工芸調査報告書 第15集 埼玉の船大工」民俗文化センター(分担執筆) R8「博物館資料トリアージ論の陥穽」『埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要第20号』</p> <p>④ メッセージ 県庁勤務2年目となりました。文化財と博物館を担当しています。埼玉県の文化財を将来へ確実に継承できるよう、また埼玉県の博物館等施設を数多くの人に楽しんでもらえるよう、関係者の皆様と協力しながら頑張っていきたいと思っております。</p>
<p>うちだ ゆきひこ</p> 		


川邊絢一郎	民俗学 (祭礼・人生儀礼)	<p>① 経歴・職歴 R7.4～ 埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員</p> <p>② 過去の業務実績 &lt;展示&gt; (1)R8.3～R8.5 常設展示第10室 コラム展示「藁を編む」 (2)R7.11～ 常設展示第9室 産業コーナー「埼玉の瓦」</p> <p>③ 著作・研究実績等 &lt;論文・研究ノート&gt; (1)川邊[2026]「金谷の餅つき踊りの『復活』」(『埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要』20) (2)川邊ほか(共著・筆頭著者)[2026]「大和郡山市矢田町八坂神社におけるオンダの変遷」(『奈良県立民俗博物館 研究紀要』26) &lt;書籍・報告書&gt; (1)埼玉県立歴史と民俗の博物館 編[2026]『無形民俗文化財調査事業「巡り・廻りの民俗行事」調査報告書Ⅱ』(分担執筆:第一章、第二章、第三章第一節・第二節第二項) (2)斎藤英喜・八木透 編[2026]『祇園祭と牛頭天王』(分担執筆:第九章「東日本の天王信仰と農耕儀礼」) &lt;研究発表・講座など&gt; (1)2026年1月30日「民俗事例から見る死／生」(埼玉大学ミュージアム・カレッジ2025「死と生—歴史・美術・考古・民俗からみる人の節目—」) (2)2026年1月28日「なぜ”復活”できたのか?～祭礼・行事の中断と再開を考える～」(埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 プレミアム講座)</p> <p>④ メッセージ 私たちの生活がどのように移り変わってきたのかを知り、これからの暮らしのあり方を考えるきっかけになるような仕事をしたいと考えています。専門は日本民俗学で、祭礼・行事や人生儀礼、天王信仰について調べています。</p> <p>⑤その他 埼玉県以外の主な調査地は、東北地方(福島県・秋田県)です。趣味で獅子舞をやっています。</p>
かわべけんいちろう	祭礼・行事の中断と再開／天王信仰 ／人生儀礼	
		

佐藤 夏美	民俗学 (衣食住・社会)	<p>① 経歴・職歴 R3.4より埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員</p> <p>② 過去の業務実績 R4 企画展「銘仙」副担当(歴史と民俗の博物館) R6 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」運営(歴史と民俗の博物館) R6 民俗芸能講習会「江戸里神楽 おかめ・ひょつとこの舞」運営(歴史と民俗の博物館) R6 企画展「お金を出して！」副担当(歴史と民俗の博物館) R7 歴史民俗講座「くらしの火について考える」講師(歴史と民俗の博物館) R7 特別展「はたらく装いのフォークロア」副担当(歴史と民俗の博物館) R8 ミュージアムフォーラム「住まいが語る暮らしの記憶 -文化財の住宅に見る保存のかたち-」</p> <p>③ 著作・研究実績等 R6 『巡り・廻りの民俗行事調査概報 VI』歴史と民俗の博物館(分担執筆) R7 『巡り・廻りの民俗行事調査概報 VII』歴史と民俗の博物館(編集・分担執筆) R7 『はたらく装いのフォークロア』(展示図録)歴史と民俗の博物館(分担執筆) R8 『無形民俗文化財調査事業「巡り・廻りの民俗行事」総括報告書Ⅱ』歴史と民俗の博物館(編集・分担執筆)</p> <p>④ メッセージ 埼玉県の学芸員として6年目を迎えました。親しみやすく心に残る博物館を目指し、埼玉の歴史や文化を積極的に学ぶとともに発信に努めていきます。ぜひ博物館にお越しくださいませ。</p> <p>⑤ その他 愛車のバイクカーで埼玉の気になるスポットめぐりをしています。</p>
さとう なつみ	 <p>人の生活を中心とした住まいの保存など、生活文化の保存に関心があります。</p>	

津金 霽乃	民俗学	<p>①経歴・職歴 R7.4～ 埼玉県立歴史と民俗の博物館 学芸員</p>
つがねみおの	口承文芸	<p>②過去の実績 R7 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」運営(歴史と民俗の博物館) R7 民俗工芸実演「わらで作る正月飾り」運営(歴史と民俗の博物館) R7 特別展「埼玉の宝物」副担当(歴史と民俗の博物館) R8 第1回民俗工芸実演「鴻巣の赤物」運営(歴史と民俗の博物館)</p> <p>③著作・研究実績等 R7 『埼玉の宝物』(展示図録)歴史と民俗の博物館(分担執筆) R7 『「巡り・廻りの民俗行事」総括報告書Ⅱ』歴史と民俗の博物館(分担執筆)</p> <p>④今年度の取り組み・抱負 常設展示第10室(民俗)を担当いたします。みなさまに埼玉県の歴史や文化の魅力をわかりやすくお伝えできるよう、努めてまいります。</p> <p>⑤その他 これまで口承文芸、とくに昔話を中心に研究を進めてきました。最近では人生儀礼や芸能などにも関心をもっています。自身の研究の幅を広げ、深めていけるようがんばります。</p>
		

服部 武	民俗学 (社会)	<p>①経歴・職歴</p> <p>H3 埼玉県立民俗文化センター  H7 埼玉県立博物館  H13 埼玉県立さきたま資料館  H14 さいたま文学館  H17 生涯学習文化財課  H18 埼玉県立歴史と民俗の博物館  H26 さいたま文学館  H27 埼玉県立歴史と民俗の博物館  H28 埼玉県立嵐山史跡の博物館  R3 埼玉県平和資料館  R5 埼玉県立嵐山史跡の博物館  R6 埼玉県立歴史と民俗の博物館</p>
はっとりたける		<p>②過去の実績</p> <p>H3 民俗工芸記録映画「埼玉の箕作り」制作(民俗文化センター)  H4 民俗工芸調査報告書「埼玉の竹細工」担当(民俗文化センター)  H5 民俗工芸実演「蕨の篠竹パイスケ」担当(民俗文化センター)  H12 ミニ企画展「竹細工と場所が変われば」担当(県立博物館)  H16 企画展「東京近郊一日の行楽－花袋が選んだ癒しの旅－」担当(さいたま文学館)  H17 企画展「装丁浪漫」担当(さいたま文学館)  H18 企画展「秩父文学の旅」担当・収蔵品展「永井荷風コレクションから」担当(さいたま文学館)  H24 特別展「職人のワザとカタ」担当(歴史と民俗の博物館)  H28 企画展「平将門」担当(さいたま文学館)  R3～4 企画展「昭和の暮らし」担当(埼玉県平和資料館)</p> <p>③研究業績</p> <p>H4 「三郷市のよしず作り」についての報告(民俗文化センター紀要)  H7 「在来産業と民俗－蕨の篠竹パイスケについての報告－」(県立博物館紀要)  H8 「在来産業と民俗－三郷市のよしず作りについての報告Ⅱ－」(県立博物館紀要)  H12 「在来産業と民俗－赤山箕についての報告－」(県立博物館紀要)  H12 「在来産業と民俗 研究会報告」(民具研究)  H13 「民俗大辞典」パイスケの項  H13 「埼玉で発明された民具」(さきたま資料館紀要)  H14 「職人製作の箕と農家副業の箕の比較」(さきたま資料館紀要)  H14 「産業社会移行期の竹細工－コマアゲザル・パイスケ・ステカゴ－」(民具マンスリー)  H15 「特許番号のある民具についての報告」(さきたま資料館紀要)  H19 「竹細工の機械化についての報告Ⅰ」(民具研究)  H20 「容器の辞典」ステカゴの項  H20 「竹細工の機械化についての報告Ⅱ」(民具研究)  H20 「農村の余剰労働力による竹細工」(武蔵大学人文学部紀要)  H23 「明治45年『木材の工芸的利用』に見る東京方面への流通について」  H24 「安松箕拾遺」(歴史と民俗の博物館紀要)  H28 「民具大辞典」大量生産の民具(朝倉書店)</p> <p>④メッセージ</p> <p>就職の動機は旧埼玉県立民俗文化センターで民俗音楽のCDを出していて面白そうだったからです。意に反して民俗工芸への配属でしたが、これが本当に良かったです。竹細工など当時行われていた民俗工芸には農家の副業によるものが多くありました。それまでは近代化による獅子舞の変貌を研究していたのですが、農家の副業による工芸を調査する方が都市化や近代化と民俗文化の関わりについてよくわかる気がしたのです。調査してみると、明治になってから新たに石炭運搬用に新種の箕が開発されて年間数十万個も生産されていたとか、竹細工用具や養蚕用具などの特許が農村で盛んであったなど驚きの連続でした。先人の知恵やバイタリティーにはただただ感心するばかりで、いつも勇気づけられます。調査方法が聞き取りを主として進めていくものなので、私にとっては誰もが色々な事象を教えてください先生です。また、私がお話を伺った方がご自身で関心をお持ちになり調査するようになることもあります。一緒に勉強していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。(東松山の味噌漉箕についてご存じの方は是非ご連絡ください。)</p>



町田 歩未	民俗学(生業)	① 経歴・職歴 H31.4～ 歴史と民俗の博物館 学芸員 R06.4～ 文化財・博物館課
まちだ あゆみ		② 過去の業務実績 R3 企画展「お茶を楽しむ」(歴史と民俗の博物館) R4 企画展「銘仙」(歴史と民俗の博物館) R7 講座「時代を超えて愛される、秩父銘仙の歴史と魅力」(秩父地区文化財保護協会研修会)
	生業の継承	③ 研究業績等 R3 『銘仙』(展示図録)歴史と民俗の博物館(分担執筆) R4 『お茶を楽しむ』(展示ブックレット)歴史と民俗の博物館(執筆) R4～R6 『巡り・廻りの民俗行事調査概報 IV・V・VI』歴史と民俗の博物館(分担執筆) R5 「企画展『お茶を楽しむ』－他機関との連携事業も含めて－」(紀要第17号)歴史と民俗の博物館(執筆) R6 『民俗資料を介した市町村立博物館への支援－羽生市立郷土資料館での県政出前講座を例に－』(紀要第18号)歴史と民俗の博物館(執筆) R7 「『お茶屋』の成立にみる家業継承の柔軟性－狭山茶産地を事例として－」(『埼玉民俗』第50号 埼玉民俗の会) ④ メッセージ 文化財・博物館課、指定文化財担当が3年目となりました。民俗文化財・無形文化財の保存や活用に尽力します。